

# 日本語の〈とき〉をあらわす従属節の構造

村木新次郎

同志社女子大学

キーワード：とき 従属節 従属接続詞 文法化

1. 〈とき〉をあらわす従属節を構成する述語の形式としては、(1)語尾、(2) (狭義の) 接尾辞、(3)助辞、(4)従属接続詞がある(村木(1991))。本発表は(4)の形式のみをとりあげる。

## 2. 先行研究

佐久間鼎(1940)(1955) 「吸着語」

三上章(1953)(2002) 「準詞」

奥津敬一郎(1986) 「形式副詞」

南不二男(1974) (1993) 従属句・従属節の4段階「描叙」「判断」「提出」「表出」

## 3. 従属接続詞の位置づけ(村木(2005) (2007))

(1)名詞性、(2)副詞性、(3)接続詞性

## 4. 〈とき〉をあらわす従属接続詞(一部)の構造

### 4. 1. 考察の対象語

かたわら たび (に) ついでに 途端 (に) 拍子に/で はずみに/で やさき (に) 最中 (に) さなか (に) おり (に) 際 (に) あかつきに  
(考察外：とき (に) 瞬間 (に) ころ (に) ……)

### 4. 2. 考察の方法

現代日本語の書きことば (小説類・新聞) を対象にした記述的研究

従属節の内部構造 (述語部分と非述語部分の相関) の吟味

用例サンプル

(1) 作業場にたてこもって、注文の鳥籠や茶器をつくるかたわら、手ヒマをかけてつくったこの竹人形は、見事な出来栄えといえた。(雁の寺)

### 4. 3. 考察結果

村木 (2002)

従属接続詞に言及し、「かたわら」「あまり」「ついでに」「とおりに」「くせに」「わりに」のそれぞれの句・節の述語に注目し、〈肯定否定 (=認め方)〉〈テンス〉のカテゴリの存否を問題にした (表 1)。

表 1

	<テンス>	<肯定否定>
かたわら	-	-
あまり・ついでに・とおりに	+	-
くせに・わりに	+	+

従属接続詞の文法的意味の整理(表2)

	文法的意味	アスペクト	タクシス
かたわら	ある行為をしている<同時時間帯に>別の行為をすることを予告する。	無関与	(ひろげられた)同時性
たび(に)	ある事態が成立すると、<いつも>別の事態が成立することを予告する。 ある事態が成立するにつれて、別の事態が<次第に>進行していくことを予告する。	反復相	同時性(反復・多回性) 継起性(反復強意性)
ついでに	あることを{する/した}ことを<好機>として、別のことを行なうことを予告する。		(ひろげられた)同時性
途端(に)	ある事態が成立{する/した}<直後>に、別の事態が起こることを予告する	瞬間相	同時継起性(直後)
拍子に/で	ある事態が成立{する/した}<直後>に、(それが<きっかけ>となって)、別の事態が起こることを予告する。	瞬間相	同時継起性(+原因)
はずみに/で	ある事態が成立{する/した}<直後>に、それが<きっかけ>となって、別の事態が起こることを予告する。	瞬間相	同時継起性(+原因)
やさき(に)	ある事態が成立{する/している/した/していた}<瞬間>あるいは<直前>に、予想する事態とは異なる別の事態が起こることを予告する。	瞬間相	同時継起性(+予想に反する)
最中(に)	ある事態が成立{する/している/した/していた}<時間(帯)>を意味し、別の事態が起こることを予告する。	持続相	同時性
さなか(に)	ある事態が成立{している/していた}<時間(帯)>に、別の事態が存在することを予告する。	持続相	同時性
おり(に)	ある事態が成立{する/している/した/していた}<とき>を意味し、別の事態がおこることを予告する。未成立のことには使えない。	特定のアスペクトに偏らない	同時性
際(に)	ある事態が成立{する/している/した/していた/しない/しなかった}<とき>を意味し、別の事態がおこることを予告する。未成立のことにも使える。	特定のアスペクトに偏らない	同時性
あかつきに(は)	<未来に>ある事態が成立すれば、別の事態が成立するであろうことを予告する。	無関与	